

# 現業評議会ニュース VOL.43

第9回  
現業組織集会

## 現評運動の継承にむけ 現場から組織強化の取り組みを



現業職場では人員不足に伴い、現評運動の継承にむけ担い手の育成や組織強化の課題が急務となっている。現場からの取り組みを強化していくことを目的に現業評議会は、7月20日から21日にかけて大阪市内で第9回現業組織集会を開催し、全国から737人が参加した。



(多くの事例を紹介しつつ、講演をした鴻上さん)

集会初日の全体会では、作家・演出家の鴻上尚史さんを招いて「コミュニケーションのヒント」と題して講演が行われた。鴻上さんは講演内で、コミュニケーションが得意というのは、「誰とでも仲良くできること」ではなく、「物事が揉めたときに何とかできる能力があること」と話し、sympathy（シンパシー）とempathy（エンパシー）の言葉の違いを紹介した。

sympathyは「思いやり、同情心」という意味合いがある言葉なのに対し、empathyは、「共感力」と訳されることが多く、コミュニケーションを円滑に運ぶには、「相手の立場に立てる能力」が大切と呼びかけた。

また、「世間」と「社会」の違いについて紹介し、さまざまな角度から組合活動だけにとどまらず、日常生活においても活かせるヒントを自身の経験や例を出しながら多く述べた。

### 自身の経験を踏まえた講演 全員のモチベーションが向上する組織づくり

また全体会では、取り組み事例として、「会計年度任用職員の処遇改善の取り組み」と「能登半島地震を経験して」の単組報告がされた。

その後の講演では「日本一のチーム（職場）をめざすには」として大阪桐蔭高校野球部初代部長の森岡正晃さんを講師に招いた。森岡さんは、リーダーの役割として責任を持つこと、さらに組織強化のためには、それぞれの個性を伸ばしていくことが重要であることについて講演が行われた。



(自身の高校時代の経験を述べつつ、大阪桐蔭高校野球部の対応を述べる森岡さん)



あきらめずに取り組むことが重要と述べる久保河内さん（写真左上）（猛暑の中、全国各地から大阪に結集）  
災害対応を踏まえ、現業職員の必要性を伝える柴田さん（写真中）

# 現業評議会ニュース VOL.43-1

## 組織集会 分科会 課題ごとに4分科会を設定 課題や情報を共有化し取り組みの前進を

2日目は、それぞれの課題ごとに分科会を設定し、講師を招いての講演をはじめ、パネルディスカッションやグループワークなどが行われた。参加者は、課題や実態を共有した上で、現場からの取り組みに繋げていくため、活発な議論を交わした。

第1分科会では、会計年度任用職員の処遇改善をメインテーマとし、講演や単組取り組み事例などが報告された。その後、報告者を交えてパネルディスカッションが行われ、認識一致をはかった。

第2分科会では、担い手育成やジェンダー平等の取り組みを中心に消防での取り組み事例をはじめ、パネルディスカッションやグループワークが行われた。

第3分科会では、労働安全衛生の確立や定年引上げ制度として賃金課題をはじめ、高年齢層の働き方など、幅広いテーマを設定した。分科会では各課題に対しての法制度やこれまでの取り組み経過を網羅した講演が行われ、それらを踏まえ、参加者はグループワークで課題を話し合った。

第4分科会では、政策実現として「岸まきこ」参議院議員を講師に招き、労働組合としての政治活動の必要性について講演行われた。その後のグループワークでは岸議員との意見交換が行われ、現場課題の解決にむけ、参加者は国会での取り組み強化をお願いした。



(各分科会では活発な意見交換が行われた)



(現場や国会の取り組みについて意見が交わされた)

岸まきこ参議院議員が参加したトークセッションでは、岸議員が労働組合に関わった経緯や役員時代に印象に残っている取り組みなどについて述べた。また現在、国会議員としての会計年度任用職員の処遇改善や現業職場の課題について取り組んでいることを伝え、改めて現場の課題解決にむけ、現場実態を届けてほしいと参加者に呼びかけた。

### 「リバティおおさか」に対する取り組み

リバティおおさかは、1985年12月に開館した日本で初めての「人権に関する総合博物館」として日本の人権確立に重要な役割を果たしていました。しかし2013年から大阪府・市からの補助金が止められ以降、自主運営を続けてきたものの、大阪市との市有地をめぐる民事裁判での和解により建物が失われ、2020年5月をもって休館となりました。これら社会的共有財産である人権資料を未来に継承するために、展示実現にむけた寄付金を募集していることから、組織集会において募金を取り組みました。

参加者からのご協力により、16万9780円が集まりました。募金への趣旨のご理解、ご協力ありがとうございました。



目録を受け取る、公益財団法人大阪人権博物館理事長の石橋武さん(写真右側)